

# POWER FILE ★ 1143

## 若沖の魅力と高精細複製画の技を語るトークイベント



## 大丸創業300周年×伊藤若沖生誕300年 京都文化遺産講座 甦った果蔬涅槃図

### 錦市場に育った若沖の作品(複製)を、大丸京都店で展示。

時を経ても色褪せない芸術性と緻密な筆致で、現代人を魅了する江戸時代の絵師、伊藤若沖。若沖は京都・錦市場にあった青物問屋に生まれ、ここから数々の作品を世に生み出しました。今、空前の若沖ブームが巻き起こるなか、生家にほど近い大丸京都店地下1階・地下通路ショーウィンドウで、2月16日(木)から28日(火)まで、若沖作「果蔬涅槃図(かそねはんず)」の高精細複製画が展示されました。

釈迦の入滅を描いた「涅槃図」における登場人物を野菜に置き換えた「果蔬涅槃図」は、若沖の作品群でも異彩を放つ作品。枠に収まらない自由な発想の原点に、若沖が生まれ育った青物問屋の環境が垣間見えるところもユーモラスです。

これを現代の高度な印刷技術によってほぼ原寸大で甦らせたものが、今回の展示作品。企画は、伊藤若沖生誕300年と大丸創業300周年を記念して実現しました。期間中の21日(火)には、KBS京都の遠藤奈美アナ司会によるトークショー「京都文化遺産講座 甦った果蔬涅槃図」も開催され、訪れた方々を華麗なる若沖のアート世界へと誘いました。



### 「祈り」をテーマに若沖名画を綴った4K映像に酔いしれて。

「京都文化遺産講座 甦った果蔬涅槃図」は、6階イベントホールエントランスで13時から開催。会場では、2分の1サイズの「果蔬涅槃図」複製画も公開され、若沖の世界観を表現しました。

多くの方々が詰めかけた会場。まずは遠藤アナが、ともに300年の節目を迎え、拠点となった地も重なる大丸と若沖のご縁について紹介しました。その後、昨年、若沖生誕300年を記念して製



作された4K映像作品「若沖 祈りのかたち」をモニター上映。若沖の名画を美しい映像で綴った作品に、会場に集まった人々もうっとり酔いしれる10数分間となりました。

### 若沖ゆかりの宝蔵寺住職と、印刷のプロに聞く文化遺産の価値。



そして、いよいよトークタイムがスタート。宝蔵寺住職の小島さんと大日本印刷株式会社京都文化遺産グループの桐谷さんを迎えました。

裏寺町通にある宝蔵寺は、若沖の生家である伊

藤家の菩提寺。そのゆかりから寺院に残る家族の墓石や若沖とその弟子の作品などについてお話いただきました。

展示中の「果蔬涅槃図」高精細複製画は、宝蔵寺から大日本印刷へ依頼されて製作されました。歴史的には、宝蔵寺が誓願寺へ寄進した後、明治時代になって流出してしまったもの。再び誓願寺へ奉納できないかと考えていた小島さんは、大日本印刷からの複製画製作の相談に、真っ先に「果蔬涅槃図」を提案したそうです。



展示作品をめぐるさまざまなエピソードとともに「果蔬涅槃図」の魅力や描いた当時の若沖の心境などにも踏み込んでトーク。緻密な筆致が光る若沖の作品を、4億画素という圧倒的な表現力で再現した印刷技術についても解説しました。

最後は、宝蔵寺や大丸京都店などで予定される若沖関連の催しを紹介しました。そして、先人の感性や技、時代背景などを今に伝える文化遺産と、受け継がれていく「伝統のルー」に想いを馳せてトークイベントは終了。一大ブームとなっている伊藤若沖の魅力にふれながら、改めて文化遺産の価値を見つめ直す機会となりました。